

世界で初めて人工的に雪の結晶を再現した中谷宇吉郎博士は、「雪は天からの手紙である」という言葉を遺されました。雪の結晶の形が気温と水蒸気量によって決まることを突き止め、地上に降ってきた雪の結晶の形から、それが作られた上層大気の状態を推測できることを表現しています。

岩石や隕石(いんせき)には、形や大きさがさまざまなかたまり物の結晶が含まれています。雪の結晶と同じように、鉱物の特徴は作られ

発現研究現場

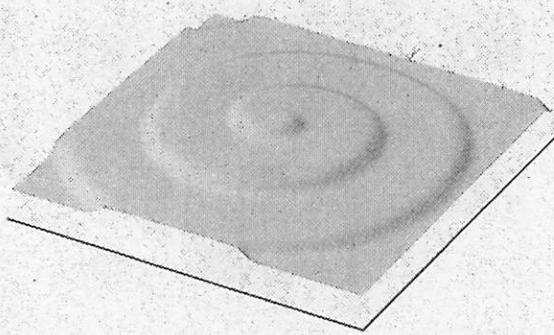
名古屋市立大学大学院
システム自然科学研究科准教授

三浦 均

鉱物の形はどう決まるのか



コンピュータで再現した成長する結晶表面のらせん模様



「結晶成長学」で地球惑星科学の謎を解明する

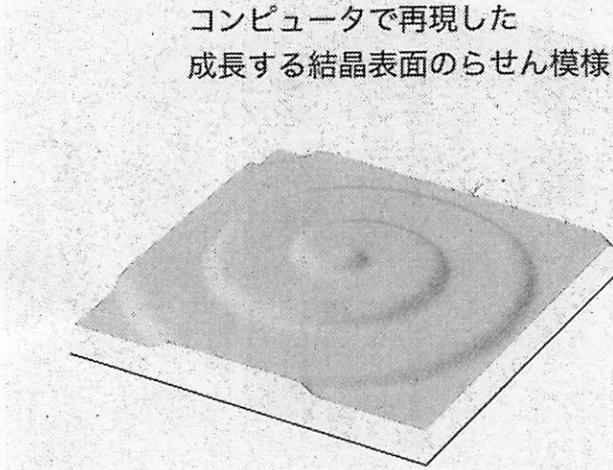
私たち
は結晶成
長学に基
づいて鉱

の状態が記録されているのです。この記録を読み解くには、「結晶の形がどのようになるか?」を理解する必要があります。この

ようなことを扱う学問が「結晶成長学」です。結晶成長学では、「ある結晶化駆動力に対しても、結晶がどのような速さで成長するか? 飽和状態になるまで水に食塩を溶かし、そ

うか?」を突き詰めます。食塩水の中で食塩の結晶を育てたことはないでしょか? 飽和状態になるかにすることができるでしょか?

た場所の環境を反映しています。隕石に含まれるコンドリュールという球状の組織は、およそ45億6千万年前はどこででしょうか? 宝石も昔の初期太陽系においては、地下百数十キロ以深で作られたのち、マグマとともに地上に噴出したものが届かない宇宙や地球深部



の中に小さな食塩の種結晶を入れて放置すると、種結晶が次第に大きく成長していきます。これは水の蒸発に伴って食塩水の濃度が上がり、水に溶けきれなくなつた食塩成分が種結晶に取り込まれていくからです。このとき実際の濃度と飽和濃度との差が結晶化を引き起します。駆動力が2倍になれば成長速度は何倍になるのか? 結晶面ごとに成長速度は違うのか? 不純物が入ると成長速度はどう変わるのか? 結晶成長の基本原理を